



おっきくなつた
マナちゃん

私の名前は 犬○マナ、
イロイロなことに
好奇心旺盛な○学生です。



最近、
私の身体に不思議なことが
起こってます。



○学が上がってから
胸が少し膨らんできて、
大人の身体に成長しているんだなと
思っていたのだけど……。

赤

イニ



パウチというエッチな妖怪のせいで、
私のお胸がとっってもとっっても大きくなっ
てしまったのです。



ただでさえ「デカマナ」なんてアダ名で
呼ばれているのに、
これじゃあ「デカ乳マナ」だよお……。

同級生や先生が、
私の胸をジロジロと見てきて
とても恥ずかしいのですが、



最近

は
そのエッチな視線がちよっとだけ
気持ちよく感じるようになって……。
これも妖怪のせいなのかなあ？



それでは、
エッチなおっぱいになった
私生活をちよっとだけ紹介します。

今日もおっぱいを揉ませて欲しいと
クラスメイトのA君に頼まれました。

A woman with large, light-skinned breasts is shown from the chest up. She is wearing a red bra. A hand with long, light blue fingernails is touching her right breast. The background is dark and blurry.

年頃の男子たちにとって、
私のおっぱいは目の毒のようです。

最初は偶然を装って
軽くタッチしてくるだけだったのですが、
最近では堂々と揉んできます。

「うおおおおお、

マナのおっぱいをマジでデケェー！」

「あん♡肩凝るし痴漢されるし

おっきいのも結構大変なんだよ」



おっぱいを触らせてあげると

男子は大喜びするので正直悪い気はしません。

「はぁ♡ほんと男子っておっぱい好きだよね」
「こんなデカパイを知っちゃまったたら、
ネットの画像なんかじゃ我慢できねえよ」



「もーすっかりおっぱい中毒なんだから……。
えっち♡」

次第に揉む手付きは激しくなっています。

「ん♡ちよっとー激しいよお。

もっと優しくしてくれないと、

もう触らせてあげないよ?」

「ふーっふーっ……」

どうやらおっぱいを揉むのに夢中になって
私の声はもう聞こえていないみたい。



毛

毛

「ん……♡あん♡

そんなに強く揉んだら……♡

声ガマンできなくなっちゃう……♡」

必死になっておっぱいを揉む男子の姿は

とても可愛いと思えちゃいます。

「うっ……！」

激しかった手付きが急に止まりました。



「もう終わりでいいの?」

どうやらイッてしまったようです。

男子はだいたいたい5分くらい胸を揉むと
射精してしまいます。

ズボンの中で射精してしまった彼は、
残りの授業は体操ズボンで過ごそうです。

体育の授業でもないのに
体操ズボンを履いている男子は、
だいたい同じ理由なので、
誰が私のおっぱいで射精してしまったのか
ひと目でわかってしまいます。



それにしても……、

もう少し揉んでいてほしかったなー♡

今日は

オチンチンをおっぱいで挟んで欲しいと
B君に頼まれました。

キヌ



ふわふわのおっぱいの中に

ガチガチに勃起したオチンチンを

包んであげます。

ム

ー

イ

「んっしょ♡よいしょ♡

どうっ?パイズリ気持ちいい?」

「あっ……犬Oさん……」

「これスゴッ……ンッ……」



ダッ
っ
%

ダッ
っ
%

「気持ちよさそうな声出しちゃって♡

いっぱい気持ちよくしてあげるから

すぐにイッチャダメだよ?♡」

「あは♡スゴイ変顔して射精してる♡」
「犬Oさん……ダメ。」

今イってる最中だから……これ以上は……」

ビュッ



トッ
クッ
ユ

「だーめ♡」

精子全部吐き出させてあげるんだから♡
ほら、いっぱい出して「ユッユッ」♡

「精子いっぱいばいでたねー♡えらいえらい♡」

私のおっぱいに

くっさい臭いが染み付いちやうよ」

（本当は

もっと出してほしかったんだけどな……）

「うっ……うっ……」



「ほら♡いつまでもアへ顔してないで

今度は私の中に入れさせて……」

「あれ?どうしたの?」

こんなところで寝たら

皆に恥ずかしいカッコ見られちゃうよ?」

どうやらB君には刺激が強すぎたようで、

気絶してしまっただみたいです。



私は慌ててその場をあとにしたので

その後B君がどうなったのかは知りません♡

今日は

隣に住む年下のY君とエッチしてあげます♡

Y君が私のことを

昔から好きなのは知っていましたが、

ちよつとしたイジワルでおあずけにいました。



おあずけにしてたぶん小さいオチンチンでも
ギンギンに勃起しています。

「マナお姉ちゃん……」

ボクもう我慢出来ないよお……」

「はーい♡」

男の子がそんなにせかさなの♡

すぐに気持ちよくさせてあげるね♡」



「でも、気持ちいいからって

すぐにイッちゃったらダメだよ♡」

「あん♡見てみて♡

Y君のかわいいオチンチンを
お姉ちゃんのオマンコが
全部食べちゃったよ♡」

「んっ……なにこれ……。」

こんな気持ちいいのボク知らないよお」



ヌッ
ッ
ッ

「これからもーっ気持ちよくなるから、

Y君もお姉ちゃんのこと

いっぱい気持ちよくしてね♡」

「あん♡あん♡

ちよつと小さくて物足りないけど

これはこれで楽しいかも♡」



Y君は私の言葉を真に受けて、

小さいながらも一生懸命に腰を振って、

とっても可愛いです。

「お姉ちゃん……ボクもう出ちゃうッ」

「ん♡あん♡Ｙ君一人で先にイッちやうの?」

お姉ちゃんまだ気持ちよくなってるじゃないよ?」

「ごめんなさい……ごめんなさい……」

Ｙ君は泣きそうな顔で必死に射精をガマン

してるけど、私の中のオチンチンが限界間近で

ふるふると震えてるのが伝わってきてちゃう。



「お姉ちゃん……好きっ！しゅきら……！」
「ん♡」

ちっちやいオチンチンから
ピュルピュル精子出てるう♡」



ん
ん
ん

「……あ……あ……」

「はあ……はあ……、しゅきら……」

「Y君早すぎるよお……」

お姉ちゃん、

早漏な子はいあまり好きじゃないかなあ」

「そんなあ……えぐ……えっぐ……」



精液の量も少ないし……」

こどもオチンチンだから仕方ないのかな。

でも、これじゃあちよっと不完全燃焼だよ。

あ♡イイコト思いついちゃった……♡

まだまだエッチしたりない私は、

Y君のパパを誘惑してエッチして貰います♡



Y君のパパのオチンチンは

Y君のこどもオチンチンとは比べ物に

ならないほどご立派な大人オチンチンです♡

「まさかマナちゃんがかこんなエッチな娘に育ってたなんておじさんびっくりだよ」



「そうです♡

私エッチな娘なんです♡

だからこのおっきな大人オチンチンで
たくさんハメハメしてください♡」

「いやん♡」

おじさんのオチンチンおっつきすぎて
挿入しただけでちよっとイッちやっただ♡」



「マナちゃんの内もキツキツ締め付けてきて
おじさんもすぐにイッちやいそうだよ」

「ダーメ♡おじさんまでY君みたいな早漏だと
幻滅しちゃうよ♡」



「マナちゃんおじさんもうそろそろ……」
「私もイクから一緒にイこう♡」
「いっばい精子ちようだい♡」



「イッククウウウ♡

大人オチンチンでイカされちゃう♡」

「すっぴん♡」

「おじさんの精液まだビュービューでてる♡」

とっ
とっ
とっ



「私の子宮の中が精液でいっぱいだよお♡」

「あん♡

精液いっぱい貰っちゃった♡

いっぱい気持ちよくしてもらっちゃった♡」

ド
ロ
オ



「おじさん、

またエッチしようね♡」

今日はN先生とエッチします。

N先生は私が今までエッチした人たちの中で

一番エッチが上手くて♡

一番オチンチンが大きくて♡

一番精液が臭いです♡



私はそんなN先生とエッチするのが

大好きです♡

「♡♡♡
♡♡♡」



ト
ト
ト

「ほら、さっそく一発目いくぞ」

「くっさあい♡」

いったい何食べたたら

こんなに精液臭くなるんですか?♡

ト
口
オ



アンモニア臭にも似た強烈な香りに

私はなぜか病みつきになっています♡

でも、くっさい精液以上に
一回や二回射精したくらいでは萎えない
このオチンチンはもっと好きです。



「先生のオチンチン今日も元気だね♡
次は私の中で精液出してくだささい♡」

「それにしても犬○は胸もデカイが
尻もデカイよな」

プシッ



「いやん♡お尻大きいのは
気にしているんですよ♡」

「あ♡

極太ガン反リオチンチンスゴイ♡
早くオマンコに入れてくださいよお♡」

スッ

ッ



「犬〇のエロい尻見てたら、
オカズにシヨリたくなっちゃった」
「ええ……、おあずけなんて
ヒドイよお♡」



シク

シク

「おいおい、

マンコがヨダレ垂らしてるぞ」

「もう我慢出来ないの♡

はやくう♡

イッチャってくださーい♡♡」

シク

シク





ムニッ
ムニッ

「あんツ♡」

「お尻まで先生の精液で
臭くなっっちゃいました♡」

ドロオ

「次は私の膈内でも出してくださいな♡」



「ああん♡」

待ちわびてた先生オチンポ入って来たあ♡
先生好きいい♡」

ズワッ
ズワッ
ズワッ

「お前が好きなのは俺じゃなくて
俺のチンポだろ」



「あっ♡はあんっ♡
いきなり激しいよぉ♡」

「もっと深く♡」

「オチンチンガンガン深くついてっ♡」

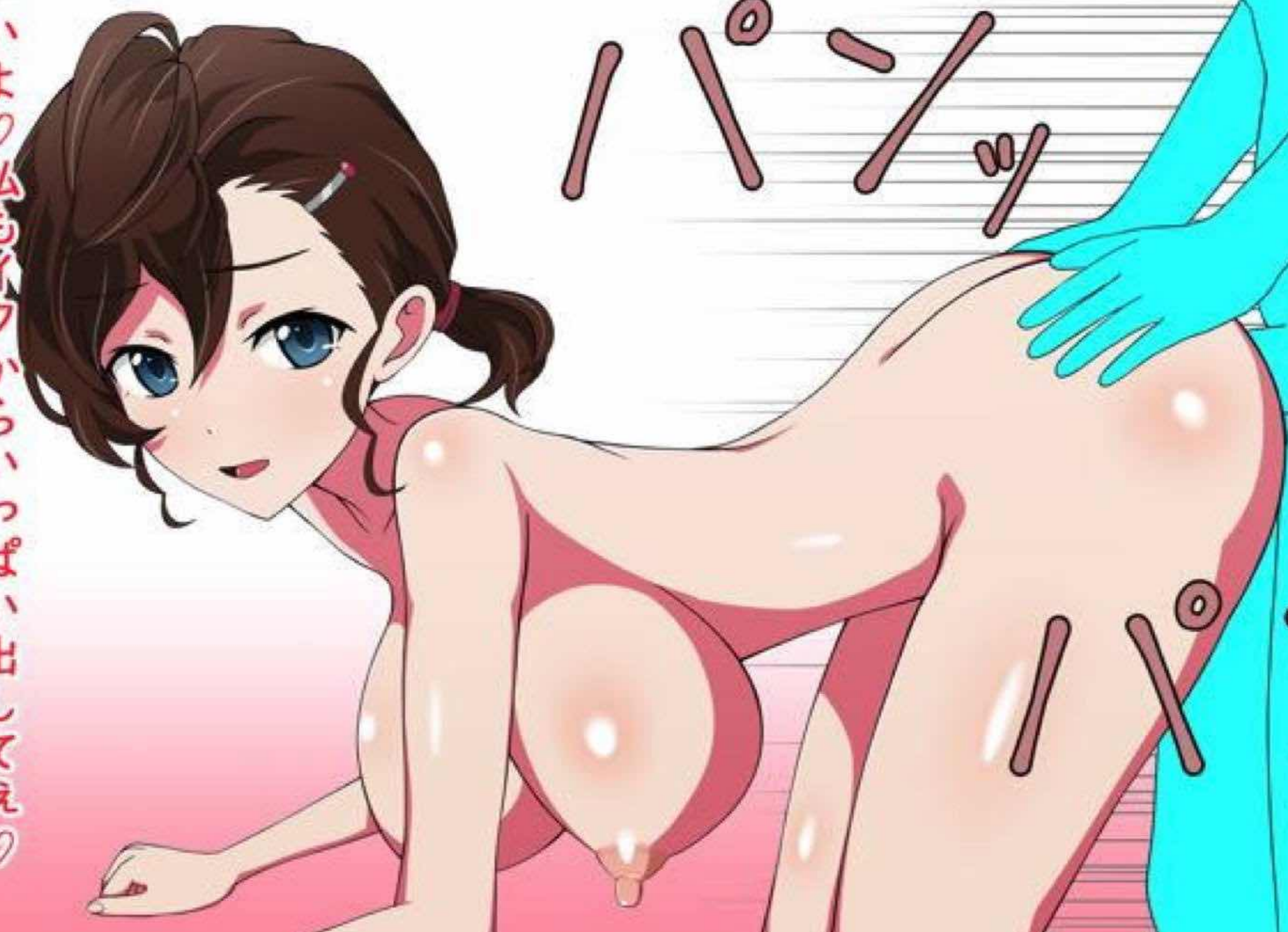


「先生の極太オチンチン

膣内でパンパンに膨らんでる♡

射精したくて暴れまわってるよ♡」

「いいよ♡私もイクからいっぱい出してえ♡
淫乱マンコを精液で濡れさせてえ♡」



「あっ♡ああん♡

最高だよお♡

精液ドクドクキモチイイ♡」

ドクッ。

ドクッ。

「おちんぽ脈打ったびに

くっさい精液流れ込んできてるう♡」



「先生出し過ぎだよぉ♡」

精液多すぎてオマンコから溢れちゃう♡」

ドッロォ

「また、明日の放課後

いっぱいエッチしようね♡」





あっ……♡
あんっ……♡

んっ

ぶっぶっ

ぶっぶっ

はあ……♡
はぁ……♡

んっ



ぽんぽん...

ぽんぽん...

んんっ♡
んんっ...

~

ぴゅっ...

「いやん♡

精液溢れてきちやうとこを

そんなに見つめられると恥ずかしいよぉ♡♡

ちゅ...♡

ちゅ...♡

ん

ドロォ...





「また明日もいっぱい、いっぱい
精液注ぎ込んでね♡」

ん

ん